

はしがき

この本は私が先に著した『句動詞の底力——「空間発想」でわかる
広がる英語の世界』(プレイス刊)の続編です。引き続き、1つの動
詞に1つまたは2つの単語が続いて構成される慣用表現、すなわち
「句動詞」を扱います。

既存の動詞に1つ(場合によっては2つ)の単語が加わることに
より、その動詞に新しい意味が与えられます。新しい意味といっ
ても全く変わってしまうわけではなく、元の動詞が単独で使われる
ときの意味と関わりがある場合もあります。

She **picked up** the pencil.

「彼女は鉛筆を拾った」

He **picked out** the reddest apple.

「彼はいちばん赤いりんごを選び出した」

pick はみなさんも意味を知っている、かなり基本的な動詞です。
up と out を足しても、2つの単語から成る新しい動詞 pick up と
pick out は pick の基本的な意味(「つまみ出す」「選ぶ」など)を維
持しています。

別の例をあげると、動詞 pass もかなり基本的な動詞です。
pass を使って、次のような2単語の動詞を作ることができます。

My aunt **passed away**.

「叔母は亡くなりました」

Tom **passed out**.

「トムは気を失った」

最初の pass away の意味は、次のように考えればそれほど難し

くありません。

She went away to a new world/existence. = She died.

彼女は新しい世界 / 存在へと去った = 彼女は死んだ

pass out の意味は pass away よりも理解するのがやや困難です
が、「意識を失う」(lose consciousness) という意味です。

上記の例は、これらの2語から成る(つまり、2語で1つの意味
を持つ)動詞(=句動詞)を学習し、理解するうえでどう考えれば
よいか役に立ちます。

- **pick up**: ちょっとした常識と想像力で、この2語動詞を理解し、
学ぶことがかなり簡単にできます。
- **pass away**: 2語動詞を理解し、学ぶには、より多くの常識と
想像力が必要です。
- **pass out**: この2語動詞の意味を想像するのはかなり難しく、
おそらく独立した語彙として学ぶ必要があります。

2語動詞の中には次のような例もあります:

I like to **hang out** with John and his friends.

「私はジョンや彼の友達とつるむのが好きだ」

この2語動詞の意味は hang や out とは関係がないので、辞書や
教師などに助けてもらわなくては意味を理解するのは困難です。

当然のことながら、多くの場合、状況に関する文脈や予備知識が、
これらのタイプの動詞を理解したり学習したりするのに役立ちます。
上記の例も、次のように文脈を加えれば、その意味はもっと明確に
なります。

At the weekends I hang out with John and his friends *and we play video games.*

「週末はジョンや彼の友達とつるんでビデオゲームをするよ」

この本はある意味、私が長年にわたって続けてきた仕事の続きです。この本の中でなされたいくつかの論点は私が今までに著した本の中でも扱われているものでしょう。しかし、そのような場合でさえも、私は本書でさらに興味深く、あるいはさらに明快なアプローチをとったと感じています。ですから、読者のみなさんがこの本から得られることは非常に多いのです。

みなさんがお望みであれば、先の『句動詞の底力』や『“英語のしくみ”が見える [基本動詞 + 前置詞] イディオム1000』などを参照して、句動詞に関する私のこれまでの仕事を確認することができます。

最後に、このはしがきで言及したい点がもうひとつあります。

読者のみなさんは、この本を読み進むにつれ、なぜ私がそういったトピックを選んだのか疑問に思うかもしれません。私がそれらを選んだ理由にはいくらか個人的な判断が含まれており、少し答えづらい質問です。しかし、私は次の点を考慮して選びました。

1) 句動詞を形成するために最も重要であるとわかっている言語の項目を選択しました。これには最も一般的な動詞（たとえば、**come, go, get**など）、および最も一般的な前置詞・副詞（**up, out, at**など）が含まれます。

（※なお、私は前置詞と副詞をまとめて「**パーティクル**」と呼んでいます。なぜこのように扱うかについては『句動詞の底力』第2章をご覧ください）

2) 実際の場面や日常的な使用に重要だと判断される言語の領域（たとえば、書くことや衣服）を扱いました。

- 3) それほど具体的ではなくても、言語のより広い側面（例えば、「人間の思考に関わる動詞」など）に関わる分野にふれています。
- 4) 文法の重要な領域（たとえば、自動詞と他動詞、3語から成る句動詞など）を扱いました。
- 5) 興味深く、時に（願わくば）独創的な手法で言語について書くことを試みました。

本書で読者のみなさんが英語学習の楽しさと深さを知り、また本書がみなさんの英語学習の礎になれば幸いです。

2019年11月

クリストファ・バーナード